

ラジオポトフ

2022

2022年12月19日

川柳連作

茄子

ひとり旅 他人

ナイフ 少女

小さいシーサー

一句を読む

茄子小説「すべる」

胡瓜より茄子が早いと嘘ついて

ご当地のソフトクリームフリーダム

少しだけ世界を知ってるアヒルたち

挑発に乗ってくスタイル矢を放て

茄子と呼んでも走り来る犬

犬と呼んでも走り来る茄子

茄子と共に去りな 仁王立ちの湖

茄子

鳥原弓里江

明日のアイデンティティ茄子とす

今晚はうちのゆうげで笑ってよ

黒紫のベルベット黄色いジャケツ

混色に茄子思えばの クラフト紙

ラジオつけ優雅に泳ぐ茄子茹る

ベランダで捨てごろを待つオーパーツ

ほらまた調子良いこと言ってる鳥

茄子

高澤聡美

真夜中に茄子が爆発する季節

十月の理由によって茄子が降る

翼竜が来なくて暇で植えた茄子

お母さんこれ丸善に置いてきて

ひとまわり大きくて濃い茄子の影

帰りみち十二月から茄子ランプ

早朝の茄子に感情移入する

茄子

今田健太郎

ベッドまでサーフィン真面目ですよねってか
困るからあなたが欲しい裏笑い

生まれた時から肘掛けは母だった
やらかいのちようだいよ聞こえてますか
花の咲く彼のゆく手のタイムライン
お姉ちゃんと呼ぶのぞき穴の存在
あなた越しの them 選ばれて振り出し

しんと冷えたの やけに目 乾く
揺れる靴底と波打ち際めざして
やましさの向こう側にはスリッパで
白だからレース地の奥に隠す塔
パーカーのポケットもってかえろ空だから
頭を見せて 湯気 一人旅
最後の一息 こちらにてはじまり

ひとり旅／他人
高澤聡美

何笑ってんだかビーナスは二色刷り／小池正博

ビーナスとはなすびのことだ。
そう気づいたとき道が開けた。なすびをひっくり返して
びーなす。俗に言う「業界読み」。むしろビーナスがなす
びだったところで句の理解が劇的に進むわけではない。だ
が、すでに道は開けた。錯覚ではない。幻覚だ。くつきり
見えている。ならば先へ進もう。暗すぎる。街灯ひとつ無
い。がしゅん。なんの音。怖い。何を笑っているんだ。誰
が笑っているんだ。ていうかそもそもなにがどう二色刷り
だというんだ。わからない。はじめましてわからなさの世
界。しかし、現代川柳の「読み」が、作者の意図を当てる
試験ではなく、その句を踏み切り台にイメージの跳躍を試
みる狂気のイニシエーションに近いのだとしたら、「ビー
ナスⅡなすび」というこじつけは、わたしにとってまさし
く跳躍そのものだった。誤跳躍。着地点の見えないやぶれ
かぶれのジャンプ。だから、堂々と胸を張って宣言するこ
となどなにもない。たとえば、口の端をだらしく弛緩さ
せ、へらへらと笑い顔で言うだろう。何笑ってんだか。へ
らへら。ビーナスは二色刷りなのだ。

一句を読む
今田健太郎

「小さいシーサー」 今田健太郎 ◆シーサーのテーマパークにひとりきり／春にしてシーサーとして君離れ／目を閉じてシーサー家族会議中／折り畳み式シーサーを折り畳む／囁家と向かい合わせに咲くシーサー／四時半のシーサー 夢の衝／シーサーか、あるいはサンドウィッチマン

おいらやりたいほうだいしてるだけの馬

ウインクまがい 少女の病
口内の賑やかさにも耳塞ぐ
カーテンと窓の隙間が知る秘密
踏み込むの袖で控えるイラストに
約束は落ち葉にかいてある象形
話しかけんな遊具たちのアジール

春巻一旦置いてみてから棄てる

芽吹いてみそんな覚えはないならさ
東京体育館 谷底を見る
しおらしさスキャンしてからは習性
とつぜん育ってあやふやなフィラメント
オトガイ 輪郭の液化化待たず
下劣にも意匠欲しがるラテアート

ナイフ／少女
高澤聡美

冷え切った腕を凍った湖面と平行に振り抜き、投げた。
さー。
凍った湖を凍った茄子がすべっていく。湖の対岸にいる
兄さんをめがけ、紫色の茄子が勢いよくすべっていく。こ
のまま茄子が兄さんの手に収まろうとどうなろうと、冬が
終われば兄さんは街の大学に戻ってしまう。対岸の兄さん
が茄子を迎えるように両腕を広げた。行け、茄子。
しかし、茄子は湖の中央あたりで勢いを失い、しゅるし
ゅると力なく何度か回転したのを最後に、すっかり動きを
止めてしまった。ああ、ぼくにもっと力があれば。切り倒
した大木をひよいと持ち上げられる太い腕があれば。兄さ
んのような、父さんのような、太い腕が。
そのときだった。
ぴきぴきと音がしたかと思うと突然、茄子の真下の湖面
が割れ、水中から真っ白なドラゴンが飛び出し、大きな口
で茄子を飲み込みながら舞い上がり、一瞬静止したかに見
えた直後、ばしゃあん、と水面に叩きつけられるように落
下した。水しぶきをもろに浴びたぼくと兄さんはひどい肺
炎を起こし、その冬のほとんどもを病院で過ごしたが、兄さ
んはそのときの入院体験をきっかけに医者になり、ぼくは
アメリカに渡ってボディビルダーになり、その後スカウ
トされて俳優デビュー。

茄子小説「すべる」
今田健太郎